

GSPiA ピッツバーグ大学
行政・国際関係大学院

リーダーを養成



ようこそ日本人学生の皆様

学部長からのメッセージ

私達GSPIAは日本と長期に渡る関係を築きあげていることを誇りに思います。日本人の卒業生は、東京の宮内庁の式部官長から国連人口基金の事務局長代理に至るまで様々な地位に就いています。最近ではこの5月に東京を訪れた時に、外務省、国際協力銀行、東京の国際移住機関、日本総研、SBIEトレード証券、その他主要な機関や組織に従事している卒業生に会いました。

喜ばしいことに、私達は日本との関係をさらに強化する新しいプログラムをまもなく完成します。次学年には、神戸大学の国際協力研究科(GSICS)とのコラボレーションで2学位取得プログラムを提供します。GSICSとの関係においては、学位生の交換だけではなく、GSPIAおよびGSICSの学部、生徒を対象とする新たな共同研究プロジェクトの発足を期待しています。

新任の学部教授の1人であるIsao Kamata助教授は、日本国籍で東京大学法律学部の学位を取得し、最近ではミシガン大学の経済学博士号を修めたことをお伝えしておきます。Kamata助教授は博士課程の研究前には、経済開発に尽力している国際協力銀行(JBIC)において様々な職責を歴任しています。彼はベトナム、ラオス、カンボジアのエネルギーセクター開発プロジェクトを監督していました。

GSPIAは米国の行政・国際関係大学院の学位取得を目指す日本人学生に様々なサービスを提供します。ピッツバーグでのご参加を心よりお待ち申し上げます。

敬具

John T.S. Keeler

GSPIA学長

最近ピッツバーグは住宅価格が手頃で、犯罪率が低く、優れた文化施設やスポーツチームを有していることで、「全米一住みやすい都市」と評価されています。交通の便が良く、800キロメートル以内に米国人口の半分以上が住み、ワシントンからは325キロメートル未満の所に位置しています。



2006年より、GSPIAで国際開発学を学んでいます。フルブライト奨学生として修士課程で学んだ後、現在は博士課程の学生として充実した研究生生活を送っています。私の研究テーマは、国際開発に携わる非政府組織（NGO）による先進国社会へのアプローチです。国際開発学、NGO/NPOマネジメント、市民社会論といった視点を多角的に学ぶことができるGSPIAは、私の研究にとってまさに最適な環境であると強く実感しています。また研究に情熱を燃やす教授陣とともに研究を進めることができるということも、GSPIAで学ぶ上での大きな喜びです。



多様な学生との交わりも、GSPIAの大きな魅力です。アルゼンチン、バングラデシュ、パキスタン、ロシア、韓国など、世界中から集まった友人から、日々刺激を受けています。それぞれの視点を持ち寄ったクラスでのディスカッションを通じて、世界を理解する視野がますます広がっていることを実感しています。充実した学生支援もまた、GSPIAの魅力の一つです。私の場合は、特に学会での研究発表に際し、多く支援をいただきました。経済的な支援に加え、多くの教授からの指導のおかげで、ある学会では若手研究者賞を受賞することができました。GSPIAからの支援がなければ、実現することはなかったであろうと思います。

ピッツバーグという学園都市も、日々の生活に刺激を与えてくれます。ピッツバーグ大学内のみならず、その他の大学にも足を伸ばし、講義や講演会、パネルディスカッション、ワークショップなどに参加しています。カーネギー・ミュージアムやピッツバーグ交響楽団など、歴史あるピッツバーグが誇る数々の文化施設もまた、留学生生活をより実り多きものにしてくれます。

Aya Okada – 博士課程の学生



東京都内で学部長Keeler に会ったGSPIAの日本人卒業生。



Isao KamataはGSPIA経済学教授です。彼は日本国籍でミシガン大学の経済学博士号を取得する前に国際協力銀行(JBIC)の様々な職責に就いていました。

University of Pittsburgh

Graduate School of Public and International Affairs

3601 Posvar Hall
Pittsburgh, Pennsylvania 15260
Tel: +1-412-648-7640
www.gspia.pitt.edu